

大通中心街まちづくり指針 2015-

事業編

選ばれる街へ 大通中心街

六商店街が総力を挙げた
“路面の魅力の再生”と
“歴史が持つ可能性の展開”

一番街商店街振興組合
二番街商店街振興組合
札幌三番街商店街振興組合
札幌四番街商店街振興組合
札幌狸小路商店街振興組合
札幌地下街商店会
(検討：大通地区再生研究会)
平成 27 年 9 月

大通地区再生研究会構成メンバー

齋藤友子（一番街理事） 森吉泰文（一番街理事） 国本和之（一番街理事代行） 吉住実（二番街理事長） 田中ひとみ（二番街事務局）
富樫浩太（二番街青年会会長） 澤田知廣（三番街理事長） 高森亮太（三番街理事） 戸澤真（四番街副理事長）
高橋樹一郎（四番街常務理事） 小田祐司（四番街理事） 島口義弘（狸小路副理事長） 牧浦弘英（狸小路常務理事）
田中伸一良（地下街副理事長） 工藤穰（地下街青年会会長） 宮古康宏（地下街理事）
鈴木敏哉（札幌商工会議所産業部長） 片岡直之（札幌商工会議所産業部生活・サービス産業課次長）
廣川雄一（札幌大通まちづくり株式会社代表取締役社長） 服部彰治（札幌大通まちづくり株式会社取締役統括部長）

■はじめに

大通中心街まちづくり指針「事業編」では、本編に示す「大通中心街ビジョン」や「コンセプトプラン」に基づき、大通中心街が抱える喫緊の課題に対して常に先回りしながら解決策を見出し、実行に移すためのプロジェクトをとりまとめます。

本紙は、今後も変化する街の課題や市民・国内外のニーズに対応しながら、追加・更新し続けます。

■目次

はじめに	01
Tゾーンプロジェクト	02
狸小路プロジェクト	04

大通中心街の顔「Tゾーン」を整える

- Tゾーンは地区に残された最後の「一等地」であり、大通公園や創成川公園から人々を引き寄せる中心街の要に位置する。
- Tゾーンで下記に注力して取組み、生き残るための道を拓く。

パブリックスペース創出

ループ化と合わせた、多様な活動を享受するパブリックスペース創出（道路の広場化や車線数の減少、沿道建物リビング化など）。

導入機能・空間整備

訴求力のあるテナント誘致とふさわしくないテナント制限。地区の集客の要となるフラッグシップの実現。

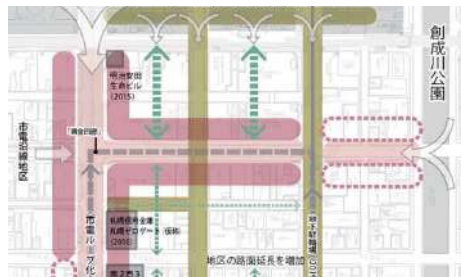
魅力的な景観整備

雪国札幌にふさわしい、街並み・サイン・植栽等に関するルールづくり。

歩行者ネットワーク形成

地区の玄関口として誰もがアクセスしやすい歩行者環境の創出（地上・地下の歩行者ネットワーク拡充など）。

コンセプトプラン： 大通中心街の顔「Tゾーン」



- Tゾーンに力を結集して世界を魅了する場所に磨き上げることが、中心街全体の生き残りにつながるという認識を共有化して、具体的な行動を起こす。
- 一番街・四番街・地下街が手を繋ぐ（ラウンドテーブルの設置）。
- もう時間がない！3年で結果を出す、というスピード感で。

テナントマネジメント（遊技場等規制）や公共空間を活用した社会実験にチャレンジ

導入機能・空間整備に関するルール作りへの第1歩目として。

遊技場等の新規出店を規制する協定の検討に着手

- Tゾーンにおける地域ルールの検討
 - Level.1 遊技場等の新規出店を禁止するまちづくり協定
 - Level.2 建替・改修に関する協定やガイドライン
 - Level.3 地区計画や景観重点地区

可能性

研究会での遊技場等を懸念する意見

現実性

地区計画までは至らなかった過去・・・

市民意向調査（次年度）→
市民は中心街に何を望んでいるか？
市民の声を追い風に！

● 取組み手順

平成 27 年度

- ①協定の対象範囲を検討
- ②市民意向の調査
- ③協定の内容検討・確定
- ④権利者への説明会の開催

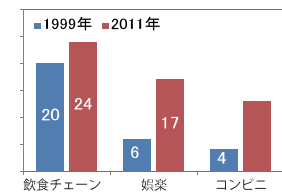
平成 28 年度

- ①合意形成 → 協定に捺印
- ②プレス発表

GLや景観について継続検討

● 参考：近年の商業環境の変化（H24 報告書）

近年、大通地区では飲食チェーン店、娯楽施設、コンビニが急増中・・・。



次年度はまず、遊技場等の新規出店規制するまちづくり協定の検討に着手。

パブリックスペース・歩行者ネットワーク創出への第1歩目として。公共空間を活用した社会実験の検討に着手

- 一番街や四番街では、これまで歩行者天国や各種イベントなど一定の取組みはなされてきた。
- 「並み」のことを仕掛けても市民は振り向かない。Tゾーンの“狼煙”としてのインパクトも大切。

次年度は、専門家の支援のもと、社会実験の内容を検討。

● 取組み手順

平成 27 年度

- ①実験の内容検討
- ②合意形成
- ③関係機関との協議
- ④商店街で実験を予算化

平成 28 年度

- ①道路占用許可
- ②実験実施
- ③成果と課題整理
- ④次年度取組検討

再実験 or 常設化に向けた検討



例えば、周辺の公園と一体となった「原っぱ」を出現させる。

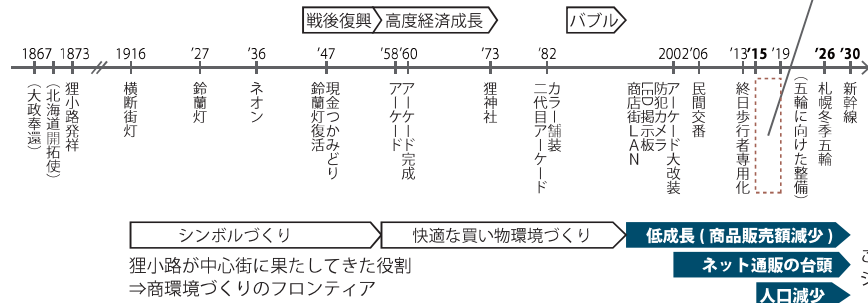


例えば、キッチンカーを活用して北海道の食を堪能できる場をつくりだす。

狸小路の未来プロジェクト

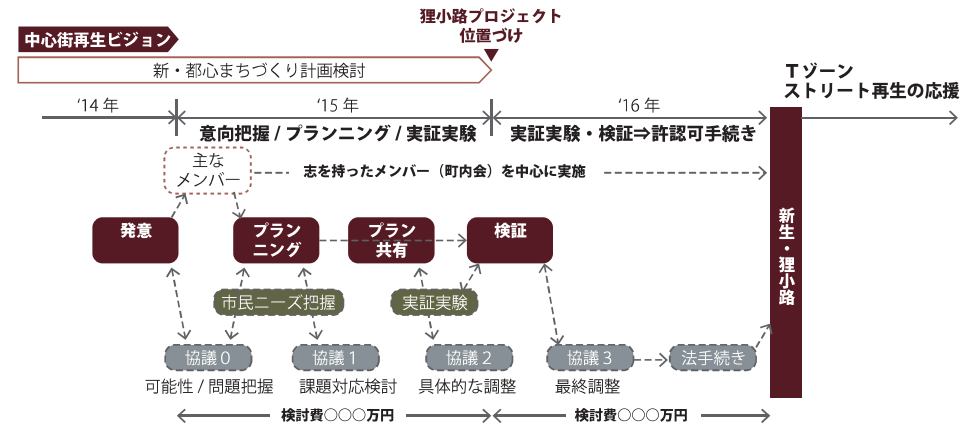
『ものすごくもっかって、ありえないほど早い』

いま、改めて問う。「商店街は誰のためにあるのか？」
徹底的にユーザーを喜ばせ、しっかり稼ぐモデルづくりにチャレンジする。



素早く (= 2年で) 実現する!

大通中心街の「先頭打者」として、まち再生の先陣を切る!



新生・狸小路のビジョン

買い物だけで満足する時代は終わった。時間消費できる空間で人々を惹きつける!

最優先で取り組むべきこと

狸小路のビジネスモデルの変革 (市民の「ウォンツ」に応えるストリートづくり)

市民の潜在的なニーズに応え、市民に愛される“場”をつくることで人が集まる。
居心地がよく魅力的な空間・体験・環境 (安全で、楽しくて、個性的で、気持ち良い) の提供が必要。

目標: 個店と街路が一体となった、世界一居心地の良い市民のリビングをつくる!

⇒ 道路の「運営権」を得て、個店と連携した
質の高い公共空間を狸小路商店街がプロデュースする



■ 道路活用 (民間開放) に向けた課題

- ・ 道路管理者として市民に説明できる効用を立証
- ・ 交通管理者も納得できるルールやマネジメント (活用内容・時間帯コントロール...etc)

⇒ 公民協働による実証実験を積み重ねる!
⇒ 利用者のニーズ・ウォンツを常に確認する!

道路活用 (リビング) のイメージ例

例1: 大通公園との回遊 (オータムフェスト / ビアガーデン等のコラボ)



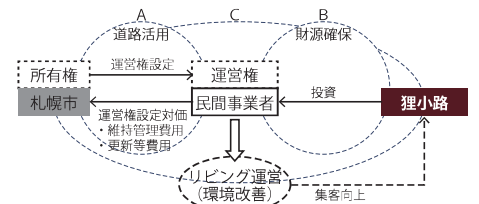
例2: 市民発表の場 (ハイ・アマチュアによる映像の祭典)



ナイトバーゲン、音楽祭、パンフェス・・・
⇒ たくさんの眠っている「個性」の可能性を拡げる

方法: 質の高い公共空間マネジメントと、地域に再投資できる資金を確保する

基本的なスキーム



道路の所有権は札幌市のまま、
路上を活用した事業の運営権を長期間にわたって付与する。

---> 取り組みによる商店街自身への効果

安全・安心の意識向上
違法キャッチに対する
自主警備

おもてなしの意識向上
観光客への自主的な案内
(皆が案内人になる)

沿道の商業者が常に軒先に出て
前面道路を「おもてなし空間」として使いこなす

自浄作用
環境整備 (ゴミ拾い等)
・・・

コミュニケーションの向上
毎日井戸端会議
・・・